

授業概要

環境問題を扱う学問では日本の高度経済成長の犠牲として、公害問題や自然破壊が生じたという言説が一般的である。しかし、本講義では、公害に苦しむ人々土台にして、あるいは様々な生物のジェノサイドのうえに成り立っていた経済成長であったという認識にたつ。このような考え方にに基づき、環境問題を解決するための経済学の一分野である「環境経済学」を扱うものとした。

環境経済学は、環境問題を外部性の問題（外部不経済）として捉える学問であるが、実際の環境問題においては、市場経済からのアプローチのみで説明・解決できることはそう多くはない。そのため、本講義では、環境経済学的視点を環境問題を可視化させるための有力な手段のひとつとして中心軸におき、多面的・多角的な考察を試みながら講義を行なう。

授業計画

第 1 回	野生動物は誰のものか：野生動物への対策が観光に与える影響 1
第 2 回	野生動物は誰のものか：野生動物への対策が観光に与える影響 2
第 3 回	野生動物は誰のものか：野生動物への対策が観光に与える影響 3
第 4 回	ペット産業の間：殺処分はなぜ受益者の負担ではないのか 1
第 5 回	ペット産業の間：殺処分はなぜ受益者の負担ではないのか 2
第 6 回	ペット産業の間：殺処分はなぜ受益者の負担ではないのか 3
第 7 回	公害と高度経済成長：政官財学の癒着構造が生んだ罪なき被害者たち 1
第 8 回	公害と高度経済成長：政官財学の癒着構造が生んだ罪なき被害者たち 2
第 9 回	公害と高度経済成長：政官財学の癒着構造が生んだ罪なき被害者たち 3
第 10 回	福島原発事故：日本経済を破たんに追いやる原子力発電 1
第 11 回	福島原発事故：日本経済を破たんに追いやる原子力発電 2
第 12 回	福島原発事故：日本経済を破たんに追いやる原子力発電 3
第 13 回	沖縄米軍基地移転問題：偏狭なナショナリズムと戦争，人権，自然破壊 1
第 14 回	沖縄米軍基地移転問題：偏狭なナショナリズムと戦争，人権，自然破壊 2
第 15 回	沖縄米軍基地移転問題：偏狭なナショナリズムと戦争，人権，自然破壊 3
第 16 回	筆記試験

到達目標

「環境問題は社会問題である」ことを理解するために、個人の努力や価値観で考えるのではなく、様々な角度から問題を検証する習慣を身につけることができるよう、受講者の「多面的視点」を養成することを目的としたい。さらに、グループディスカッション（受講者参加型学習）を導入することで、受講者の情報共有や多様な価値観の相互理解の促進、コミュニケーション能力向上の寄与につなげたいと考えている。

履修上の注意

本講義では、4～6名程度のグループをつくり、グループディスカッション形式で行ないたいと考えている。そのため、欠席者がいると講義進行に支障をきたす恐れがあるため、できる限り避けるようにすること。このような講義形式であるため、本講義の履修人数は最大でも30人程度までとする。

予習・復習

予習復習に該当するかどうかはともかく、配布された資料については次回の講義までに必ず目を通しておくこと。また、講義で使用するもの（例えば、スーパーのチラシなど）を事前に準備しなければならない時間があるので、その旨の指示があった場合は前もって時間をかけて集めておくようにすること。

評価方法

グループディスカッションにおける発表と筆記試験によって評価する。ただし、評価配分はグループディスカッションでの発表：筆記試験＝7：3とする。

テキスト

- ・教科書名：『生物多様性と現代社会：「生命の輪」30の物語』
- ・著者名：小島 望
- ・出版社名：農山漁村文化協会